

英語習熟すれば 脳の活動を節約

東大助教授ら研究

英語の習熟度が高まる
と脳の活動は節約された
状態になることが、東京
大学の酒井邦嘉・助教授
と科学技術振興機構の研
究で十六日明らかになっ
た。脳の中で言葉に関す
る機能をつかさどる部位
の血流を調べた。成果は

脳機能の解明に役立ち、
語学のよりよい勉強法や
言語障害の機能回復法を
開発する手がかりになる
とみている。

英語を習い始めた中学

一年生十四人と英語に慣
れた十九歳の東大生十五
人に、正しい回答を選択
する英語の問題を提示。
回答する際の脳内の血流
変化を機能的磁気共鳴画
像装置（fMRI）とい
う医療用装置で観察し
た。

「SING」など英語
の動詞の活用を回答する
ときは、中学生も東大生
も左脳で言葉に関する機
能をつかさどる「ブロー
カ野」と呼ぶ部分の血流

が増えた。詳しく調べた
ところ、英語に習熟して
いる東大生の方が増加量
が少なくなる傾向が認め
られた。酒井助教授は「日
本語を使うときも英語を
使うときも脳の同じ部位
が活動し、慣れてくると
その活動が少なくて済
むことが分かった」と話
している。